

Q4 また機会があれば、ホストファミリーをしたいと思いますか？

- ・機会があればやりたいと考える。
- ・ホストファミリー 2 週間遠慮したいと思います。(今のところ)とても良い経験だった。やりきった感、充実感でいっぱい。ありがとう。
- ・自分の家ではなく徒歩圏内の両親の住む実家にステイしてもらったため、両親が元気なこの数年の間に、また機会があればと思う。私たちが夕食時に実家に行き、食事、送迎、洗濯、どこか行く時の通訳、と、家族みんなでうまく分担をしたため、負担が少なく、受け入れを楽しめた。
- ・はい。したいです。
- ・仕事との両立で少し慌たしく、他にも一緒にしたい事があったと感じるくらいあったという間だった。自分たちに余裕ができれば、とても良い経験だったので、またしても良い気持ちになった。このような機会を与えていただき、ありがとう。



オーストラリアのお菓子ラミントン販売



11月19日に開催された、やまとたか産業フェア & 元気フェスタでは、リズモー市へ派遣した学生たちが、オーストラリアの伝統菓子「ラミントン」を販売しました。

今年度は、姉妹都市提携締結60周年記念であることから、記念展示も実施しました。

バンブーイングリッシュ

両市の派遣学生がバンブーイングリッシュに参加しました／



バンブーイングリッシュでは、月に2回、大和高田市内在住の5歳から12歳の子どもたちを対象に、ALTのクリスティーナ先生と英語を楽しく学んでいます。

バンブーイングリッシュは国際交流事業の一環としてはじまり、今年で8年目になります。

〈10月 ハロウィン〉



〈12月 クリスマス〉



The Bamboo Shoots

～地方季刊新聞～
大和高田・リズモー都市友好協会 発行
2023年 秋・冬号

No.182

連絡先：大和高田・リズモー都市友好協会
TEL：0745-22-1101
<https://www.city.yamatotakada.nara.jp/shisei/kokusai/lismore/>

このバンブーシューツ(筍)が、大和高田市とリズモー市の情報交換に役立つ立派な竹に成長しますように



リズモー派遣学生が来高 (2023年9月27日～10月8日)

4年ぶりにリズモー市より学生5名と引率者の1名の計6名が派遣されました。市内の学校をはじめとした公共施設の見学や、広島での平和学習など、日本の生活や文化にたくさん触れました。

週末はホストファミリーと過ごし、12日間の滞在期間を経て、帰国されました。



リズモー派遣学生アンケート

Q1 大和高田市の第一印象は？

- ・街の大きさに驚いた。かなり小さいだろうと想像していたが、かなり活気があることがわかった。多くの生徒たちは家と学校の間を歩き、お店や職場に行くために自転車に乗る人もたくさんいる。道路や建物がとても狭くコンパクトさにも驚いた。
- ・大和高田に着いたとき、私は興奮して幸せな気持ちになった。毎日とても愛にあふれ歓迎されていると感じた。
- ・初めは、狭い道があり混雑した日本の普通の町だと想像していましたが、日本の他の地域を訪れてみると、その文化的な美しさや親切な人々など、大和高田がいかに素晴らしい町であるかに気づいた。

- ・日本にいたことがとても現実離れした感じがした。初めて大和高田に来た時は、ちょっと気負ってしまい、飛行機の旅に疲れた。しかし、大和高田の人々は、私をととてもアットホームに感じさせてくれた。
- ・大和高田はとても大きな街で、とてもフレンドリーな場所で、人々はとても親切。





Q2 文化やマナーで驚いたことは？

- ・日本に到着したときは、オーストラリアとは大きく異なり、多くのカルチャーショックを受けた。しかし、2週間一緒に過ごして、独特の生活様式に慣れ、日本の文化や習慣の大切さと美しさがわかった。
(例:靴を履き替えること、儀式、お祭り、お寺、神社など)
- ・最初は靴を脱ぐことを覚えるのが大変でしたが、私は日本語が大好きで、出会った人たちは皆とてもフレンドリーで、友達を作るのは簡単だった。
- ・狭い道に驚いた。家に入る前に靴を脱いだり、ジムに入る前に体育館の靴に履き替えたりしたこと。
- ・食事の違いにとっても驚いた。日本の家に住んでみると、食べ物がいかに違うかを実感する。
- ・靴を脱ぐ習慣については、以前から知っていたが、トイレ、バスルーム、レストランやお店の更衣室でも履き替えることに驚いた。食事のマナーについても、食べる前に「いただきます」、食後にも「ごちそうさまでした」と感謝していて驚いた。

Q3 ホストファミリーについて、 一番印象に残ったことは？

- ・みんなとてもフレンドリーで歓迎してくれた。彼らの英語はとても上手だった。食事はとても美味しく、家族全員がとても協力していた。
- ・ホストファミリーは私を家族として受け入れてくれ、どれほど愛情深く親切だったか。
- ・ホストファミリーはとても親切で、たくさんのお土産や食べ物を買ってくれた。私を家族のように感じさせてくれた。
- ・ホストファミリーに会って、家族の性格は人それぞれ違うので、どうすればよいのかわからなかったが、彼らが十分な英語を話し、理解することができたので、言語の壁はまったくないとわかって驚いた。
- ・私たちは家族のようにお互いにとっても愛情を持って過ごした。



Q4 広島で印象に残ったことは？

- ・広島は本当に楽しかった。広島は非常に先進的で、戦後よく復興したと思った。人々はとても幸せそうだったし、街は大きかった。
- ・広島は私たちの日本訪問の一番の目的だった。悲劇的な過去を思い出す場所として扱われる一方で、日本の文化、歴史の希望と美しさも強調されていた。
- ・原爆資料館に行ったとき、目を見張るような経験をした。歴史を学び、広島のすべてを知ることができてとても良かった。
- ・広島は本当に美しく、緑が多く、人々はフレンドリー。
- ・原爆資料館には信じられないほど強力なメッセージがあることがわかった。宮島は本当に素晴らしかった。



ホストファミリーアンケート2023

Q1 学生を受け入れて戸惑ったことは？

- ・正直に言って、特になかった。笑顔が素敵で、とてもチャミング。礼儀正しく、日本語を頑張って話そうとしてくれて、英語もゆっくり簡単な言葉で伝えるようにしてくれた。
- ・怪我をさせたらだめなので、手すりに乗ったり、フェンスに立つ行為はかなりヒヤヒヤした。何度も注意したが「大丈夫。」(ここだけ日本語)といい、聞き入れてもらえなかった。
- ・長旅で疲れており、すごく小食で大丈夫かなと心配した。
- ・日本のアニメが好きで、円安だからかお金をたくさん使い、何度も心配をしたが、荷物超過料金を払ってでも買うと聞き入れてもらえなかった。
- ・男の子をお預かりし、娘の部屋を使用したため、少し不便があった。
- ・英語を話せないため、話を理解してもらうのに時間がかかることもあった。Google 翻訳での会話はできたが、英語をもう少し話せるようになりたいと思った。ホームステイさせていただいた家の女の子だったため、息子が色々伝えてくれた。

Q2 文化(習慣)の違いを実感したことは？

- ・初日、靴を玄関扉の外側で履いている姿に笑った。朝はシャワー、夜はお風呂に入っていて意外だった。床には座ったり寝たりせず、ソファか椅子に座り、みんなと合わせようとしている面がかわいく思えた。
- ・普段は9時に就寝するというので9時過ぎから家族みんなが静かに過ごしたこと。
- ・お店(食事)で店員さんを呼ぶとき「すみませーん！」とオーストラリアでは言わないこと。
- ・寝る時間が早く、起きる時間も早い。
- ・自販機を珍しがっていたこと。日本で楽しみにしていることの一つだと聞いて、なぜ?と思ったが、スナックの自販機はあるけど、ジュースなどの自販機はないと教えてくれた。
- ・日本の車は小さくて、運転がゆっくり丁寧だと言っていた。今までそう感じたことはなく、信号もリズモーにはないと聞いて驚いた。

- ・体温計が違うものなのか、計り方が分からず困っていた。
- ・洗濯を毎日するので「毎日出してね!」と言うと「聞いたことがない!毎日するなんて」とびっくりされた。
- ・水をととてもたくさん飲む。

Q3 一緒に過ごして楽しかったこと、嬉しかったことは？

- ・毎日が楽しく、刺激になった。
- ・全てが楽しかった。過ごした時間は夢のようで、帰ってから家族全員とても淋しい気分になった。梅干し、納豆、すき焼きの生たまごなど、初めての日本食に挑戦し、母の漬けた梅干しを毎日たくさん食べて気に入ってくれた。父の作るお好み焼きは広島のお好み焼きより美味しいと言ってくれた。私たちが彼女自身も日本食を好きになってくれると思っていたいなかった。次女手作りの折り鶴のピアスをさよならパーティで付けてくれた。甥っ子を含んだ家族10人で晩御飯を食べて、庭で花火をした。スーパー銭湯、勾玉作り体験、カラオケで英語の曲と一緒に歌ったり、積極的に日本文化を吸収しようとしてくれた。時間があれば、もっと一緒にやりたいことがあったのと思う。
- ・大人っぽく見えるが私に懐いてくれて、自分たちの買ったものを嬉しそうに披露してくれた。
- ・最後の夜に一生懸命、家族に手紙を書いてくれた。
- ・広島行きの日、事故渋滞に巻き込まれたが、出発時間に間に合うことができ、お互い言葉は通じないが健闘をたたえあったこと。言葉は大事だと感じた。英語を学ぼうとする娘たちの成長が嬉しく、頼もしく感じる。
- ・普段の生活、学校のイベント、道路事情、アルバイトの時給など、オーストラリアと日本の文化習慣の違いについて話し合えたこと。
- ・ぎょうざやおにぎり作りが上達した時はみんなですごーい!と喜んで、単純なことだが嬉しかった。(帰国後、おにぎりやみそ汁など日本食が恋しくて作ったと写真を送ってくれた。)
- ・食べたことのない食材(梅干し・長いも・オクラ・すき焼きの生たまご・柿・梨)などおいしかったら大きなリアクションで喜んでくれたり、「あれ?」と苦手な顔をする反応もまたおもしろかった。